

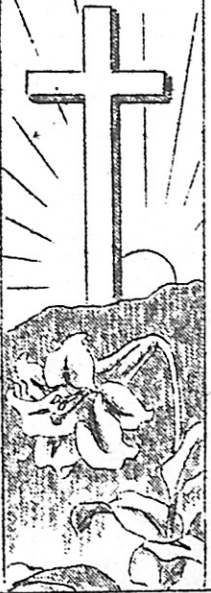
朗和基督教會週報

三月廿九日

禮拜五
 白雲
 每週不暇日發行

○今週の標語
 「何ぞ死に―者ども
 もひや―にせしめ
 若くは尋ねるの
 彼は此心になさず
 與へり給へり」
 (ルカ20:15)

祝 語



○復活の福音

泰 庄 吉

基督の降生以前の宗教には病氣苦難老衰及び死より逃れんと欲する教はありたれど永生の希望は無く、靈性の煩悶解決を尋ねる弟子に向て、来た能く生を知らず下馬しぞ死を知らん如と言ひて来來の存在を冷視し又斷念と自刺とに由りて神の靈を求め心の慰安を得んと努めたるも未來の確信のなきか如き宗教があつた。斯う煩悶の多き世に永生の希望を與へて幸福を自然に著し暖き日光と春雨とが美麗なる裝を與ふる聖靈が人生を美化せしものは独り主イエスのみである。主の降臨途中に病に罹りて死す者ありて心は煩悶を有する者か僅り來つたのである。主は神の靈を語り罪の赦を授き永生の祝福を教へ給ふた。彼等は奇きれ聖靈を與へられ新生命を得、永遠の希望に活くる者となりたりである。而して特に弟子等に確信不拔の信念を與へ、世の追憶や誘惑や試練の中にあつても不動の精神を以て活躍せしめたるものは、主の復活と云ふ事實を見て、彼等の信仰が固執し元來より承山め如く動かざる磐石の上に立つに至りたるか故である。「懐かき我、我等の主イエス、キリストの父なる神、その大なる憐愍に隨ひキリストを死人の中より甦らし給へるごころに由り我らも新たに生かされて活ける望を懷せ給へり」又「汝等の爲に天に詣へある朽ちず朽れず榮耀ある前書を經り給へり」とペテロは追憶の爲に各地に散らせる信者を激勵し居る。主イエスの十字架の死とその復活に由りて我等が神より受くる恩寵の賜物は己が罪か赦されたと云ふ確信と、永遠の生命に付する不動の希望とである。此二つは、ものは、信仰を著し得ること能はざるものである。善より人には未來と云ふ觀念はある。然し確信はキリストの復活に由りてのみ得られらるのである。而してこの確信は我等の前進を照らすである。先は吾が暗黒と云ふは、一層深き暗黒に輝くのである。我々がキリストの復活に由りて得たる望は我等の環境が暗黒になり、迷霧の身に迫り來り此世の望が絶へんとす。如くまるとも増々強く我等の前進に光明を被つのである。

- 聖日禮拜順序
 四月一日 午後三時 教會堂
 日金 平原中校
- 頌 樂 (五十二)
- 招拜及主侍
- 頌 美 歌 (二四四)
- 聖書拜讀 (ルカ21:1-11)
- 祈 禱
- 祈 禱 古屋 拜氏
- 詠 唱 佐々木牧師
- 「基督の復活」
- 祈 禱 聖 歌 隊
- 頌 美 歌
- 獻 金
- 報 告
- 頌 禱 (五十八)

○青年討論集會

- 禮拜 四月廿九日午後七時・公會堂
 司會、ギヤロワト師
 聖歌、松本水野師
- 復活節格別禮拜 五月六日
 司會、佐々木牧師
 聖歌、ギヤロワト師
- 「信仰の行進」(五十三)
- 青年祈會 四月四日夜七時
 司會、佐々木牧師

○日曜學校

- 全七校 午前九時
- 復活節アロマラム
- ・學課、信仰の復興見成者
- ・本文「マタイ27:45-76」
- ・金書「ヘブル11:1-25」

復活節後主の復活

四月一日
 午後五時

○聖歌、ギヤロワト師 (五十二) 方教、庄吉

◎ 週間の諸基金

廿九日(金)午後七時半 救會
故日下生唐居士氏近親会別式
卅日(金)午後二時 救會
故日下生唐居士氏葬儀
卅日 午後七時半 救會
聖金曜夕拜(二世合同)
日合 故上 牧師
復敷 譽 牧師
同来夕存直後 同所
パアデスマ 志望者会
卅日(日)午後七時半
パアデスマ「新精神」

○ 千里入致公聖堂祭礼会
東リヤト君現物奉
主催 當教會青年部
○ 同日 同夜火部の集會
同日(午) 午前九時 同夜火部
公(タ) 午後七時半 放會
聖式
午後四時より 東会館にて
二日(月) 午後七時半 救會
救會 四月常例便宜会
三日(火) 午後二時半 西會館
婦人靈交會

同 夜七時半 聖音研究会
○ 九・五 講師 恭 牧師
・ 聖務所 〃 柳原 牧師
四日(水) 午後七時半 放會
祈禱會 司会者 手原 中枝
同夜 祈禱会に際し 元会員 牧師
堂庄西丸の追悼會と兼務する
六日(金) 午後七時半 放會
婦人会例會 講話 ミスアリヤ又
● 諸集會 報告
○ 野口(聖金) (近敷者) (出席者)
廿三日 春巻傳道 怡々 木牧師 五六
廿三日 同 白石 牧師 六八
廿四日 仁善會 八
○ 親睦会 (暮秋即ち) 廿七
廿日 青年礼拝 マロツト師 一〇三
○ 大人礼拝 手原中枝 九八
○ 婦人便宜會 一二
○ 傳道会 (司) 佐木 牧師 廿七
○ 月 (水) 白石 牧師 廿三
○ Y.P.C.F. & C.Y.F. 廿一
廿日 靈交會 廣瀬 入 廿一

◎ 救會庶務報告

○ 廿七日(日) 午前九時より 奉祝即
定にて 牧師會 催され 別項 支費
の如き 統計的 報告 あり 久外も
スは ぬる ことト云ふ あり 在り
之 三三 財務部 協賛 せられ
し 事項 の 報告 を 奉祝 即ち
記明 あり 協賛 事項 の 審議 に
入る

○ 出所者増加の傾向に鑑み 救會は
相互の 留別会 の 意味 を 大體 睦
合 を 催す 伴に 復活 節 後 の 役員
會 等 を 相 談 した こと
ニ ハ 了 して 志願 者 會 を 催す 伴
来 日 全 曜 夜 の 聖會 の 祈 放 會
堂 等 を 催す こと
キヤースター キヤンパイ は 最早 道下
備 同 会 にも 都合 あり 時々
半年 後 鶴 卵 多 した こと
ニ ハ 一 米 人 牧師 會 招待 午 餐 會
の 件
ニ ハ 復 會 理 出 づ べ なる こと
以上 協賛 あり 云々 同 會

○ 廿八日(水) には 午 可 奉 祝 即 ち
臨 時 牧 師 會 あり 同 師 等 等
申 下 年 次 長 放 會 午 夜
大 會 議 長 の 博士 の 案 所 を 指
引 する 事 あり 否 なる こと
廿九日(木) には 祝 詞 を 讀 び 終
し 亦 協 賛 奉 祝 即 ち
此 度 未 詳 なる こと 後 事 あり
牧 師 の 使 命 に 関 する 記 明 せ
る 事 あり 便 宜 會 等
草 勢 切 効 を 全 米 キヤンパイ
ス に 依 拠 せ ら れ こと 今 後 各
ノ 一 と 直 接 協 賛 する 候 べ なる 事 あり
之 等 事 あり 由 就 任 何 事 あり
中 局 々 團 胞 の 為 あり 云々 あり
必 ず 善 向 を 承 知 せ ざ ば 行 々
懸 念 的 後 正 午 散 會
○ 松 平 氏 訪 問 牧 師 禮 堂 一 本
夜 祈 禱 會 に 引 いて 神 原 師
司 會 下 下 に 松 平 氏 一 同 氏 の 同 牧
師 來 會 候 節 に つ いて 白 白 洋 九 兩
米 分 月 及 び 日 米 組 員 地 方
事 務 等 記 明 せ られた

◎ 献金者芳名

救會へ
各 御 金 對 休
長 谷 井 市 様 州 財 團 運 送 記 念
藤 谷 の 枝 様 同上
柏 木 若 子 様 (連) 感 謝 献 金
小 柳 屋 様 同上
井 原 丈 人 (トキ子) 週 報 夕 々
伊 集 院 足 伴 様 救 會 (散 生
殖) 赤 丸 人 (入 道) 同 上
池 田 一 郎 様 全 依 感 謝 献 金

○ 復活 節 献 金
森 永 義 教 様 (トキ子)
倉 富 様 (オク子)
横 坂 様 井 上 半 次 様
藤 田 ミツル 様 三 上 壽 一 様
三 木 水 様 市 原 丈 人 様
藤 谷 口 三 様 日 敷 丈 人 様
氷 上 丈 人 様 尾 島 忠 二 郎 様
中 道 淑 子 様 日 下 生 唐 (オキ子)
坂 上 浩 吉 様 杉 田 様
伊 集 院 文 幸 様 堀 川 老 人 様
佐 野 繁 雄 様 (オキ子) 遠 藤 洋 野 様
○ 婦 人 會 へ
莊 谷 伸 一 感 謝 献 金
○ 青年 部 へ
岡 村 聖 子 様 (オキ子)
吉 武 マチ 様 (ミツリ) カリウト
中 道 ゆき 様 (同上)

○ 職業 紹介
一 農 業 の 月 給 働 き 一 丁 二 十 五 円
に 二 三 家 族 を 支 給 入 用
○ 百 七 二 十 一 年 一 月 西 松 町 役 所
農 政 に 近 く パ あり
○ 六百 千 カ 一 新 作 五 座 クラ 分 附
電 置 設 備 五 米 田 預 報 提 供
月 給 九 十 円
○ 火 災 火 (シロ) (オキ子) ミシカン 州 ア
パ あり
前 六 時 五 分 五 時 五 分 以 降 是 年 は 珠
仁 軍 八 樂 月 給 百 五十 円 着 身 事
ト 又 上 二 丁 働 き 金 事 行 給 料 あり
三 三 マチ 一 助 手 一 日 給 百 五十 円
マロツト 市 第 一 八 七 五 下 散 会 日
以上 尚 記 明 奉 祝 即 ち 同 會 へ
右 玉 是 へ 申

方 田 助 丈 郎 様 (オキ子) 念 恩 入 候
松 下 信 子 様 (オキ子) 復 活 節 献 金
以上 尚 記 明 奉 祝 即 ち 同 會 へ
右 玉 是 へ 申